

## コロナ禍における子育て支援

こども保育科3年生 小林 睦 佐藤綺子 佐藤夏音  
滝口慶依 目黒美玲 森和 奏

### 1. はじめに

現在は子育てが非常に困難な社会と言われており、厚生省\*による『コロナ禍の子育て支援策について』においても、コロナウイルスによる様々な変化は、それを更に助長しているものと言える。また2023年4月より「こども家庭庁」の設置が予定されていることも、保護者、いわゆる子育て家庭への支援が、国が取り組むべき重要な問題であることを示唆している。それを実践していくべき専門家としての保育者の活躍が求められている。その為私たちは、保育者としてできる子育て世代への支援が今後さらに重要であると考え、その実践を通して最適な支援にはなにが必要となるのかを考察していくこととした。

### 2. 目的

- ①すべての子どもの健全な育成
- ②子育てのストレスの軽減
- ③子育て世代の孤立の防止

### 3. 方法

令和4年12月23日、仙台医健・スポーツ専門学校 第二校舎にて独自イベントを開催(お楽しみ会)と称し、子育て支援イベントを実施した。

#### 1) 対象

対象は、0~6歳児の乳幼児13名、その保護者7名 計20名

#### 2) 評価基準(アンケートを基にした実地調査、同様の研究からの考察、2人称的アプローチ)

- ・親子の交流を生み出せているか。
- ・アットホームな空間を創り出せているか。
- ・自由に楽しく遊べる空間があるか。

### 4. 実施方法

○地域の認定こども園からの依頼を受け、子育て支援イベントを企画、運営、開催する。\*ただし感染症対策等の観点から、同施設での実施は断念。学校内での独自イベントとして実施することとした。

#### 1) 親子体操遊び, 運動遊びにて交流の場を提供

発達段階に基づき活動を区分。3歳未満児に対しては、子どもと触れ合い、親子のコミュニケーションを深められるような活動を行った。3歳以上児では、保護者が子どもの遊ぶ様子を見て、成長発達や子ども同士の関わりを知るきっかけの場を作った。また、子どもが遊ぶ間、保護者同士が、情報交換をしつつ、安心してリラックスできる場を作ることを目的とした環境を設定し

た。

## 2) キッズスペースにてアットホームな空間を提供

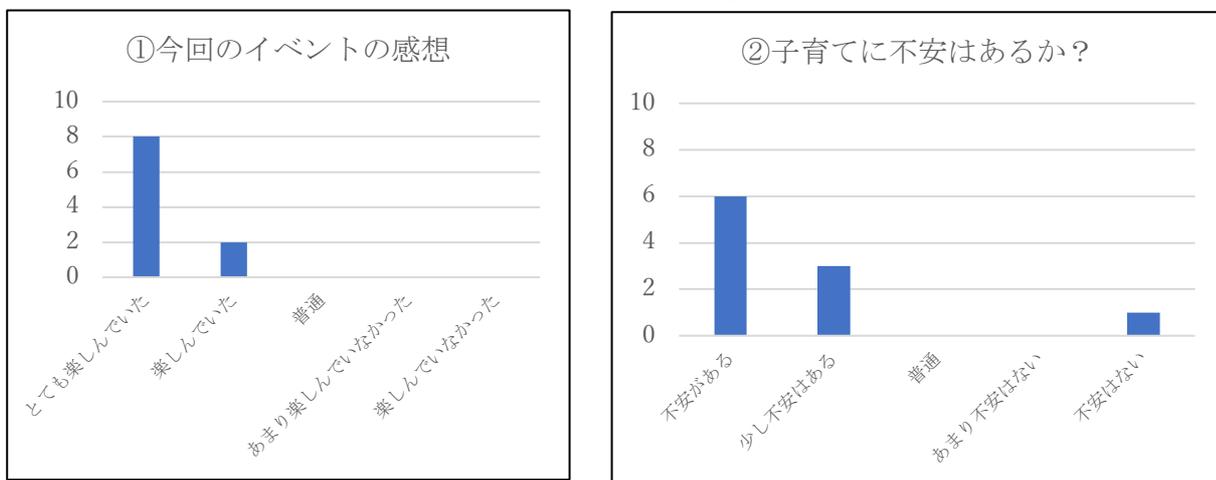
感染症対策を講じつつ、子どもと保護者が安心して活動できる空間を提供した。また、絵本の読み方講座の開設、子育てに関する情報をリーフレットにまとめ提供することで、イベント後も継続して効果を発揮する支援の場とツールを提供した。

## 3) アンケートの実施

活動の最後にアンケートを実施した。質問項目は「イベントの感想」「子育てに不安はあるか?」「どのような支援があると助かるか?」「イベントに参加したことによる心境の変化」などを調査した。

## 4. 結果

1) 事後アンケートでは参加者 10 名の回答を回収できた。その結果は下記のとおりである。



全体的にイベントを楽しみ、それによって子育て支援の一環となるイベントであったことが推測される。また、子育てに対してほとんどの保護者が不安を抱えていることも分かった。自由記述欄においては下記のような意見が見られた。

### ① イベントの感想

- ・ 子育てに関する情報共有、悩みを相談できる箇所が少ない。
- ・ 対面でのイベントに参加したいが、衛生的か、綺麗な環境であるかがすごく気になる。

### ② 子育てに関する不安はあるか?

- ・ 発達、発育に関しては特に気になる。
- ・ 家に一人でいると、外に連れていけない罪悪感、または孤独を感じることもある。

### 2) その他の特筆すべき意見

- ・ 活動中の親子の写真を、素敵なプレゼントにまとめてくれてうれしかった。
- ・ 交流の場だと親に依存することが少なくなるので、気持ちが楽になる。
- ・ 子ども達と積極的に遊んでくれたことが大変うれしかった。
- ・ 交流の場にいる方が、子どもとの遊びに集中できる。

## 5. 考察

唐田と森田\*も子育て世代の不安として「子どもの育て方が分からない」「自分の時間が持てない」「安心して子供を預ける場所がない」「身近に協力者がいない」ことなどをあげているが、私たちのアンケートでも同様の結果が見られた。アンケート結果や、活動を楽しむ親子の姿が見られたことから、今回のイベントが子育て支援に一定程度の効果があったことが見受けられる。

一方で、保護者は衛生面など安心安全に対する意識が高く、その不安から、外出しない、あるいは回数が減少することがに繋がり、「子どもの経験や楽しみを奪っている」とジレンマを感じ、それが罪悪感へと転じている実態が分かった。事後アンケート結果では、イベントに来てくれたことを感謝するためのプレゼントが、結果的に家族での会話を生み出し、親子のコミュニケーションを促した、という意見もあり、このような間接的な支援と対面的の場における直接的な支援の両立に、「質の高い子育て支援」に対する答えがあるのではないかと考えた。コロナ禍においてはこの両立を図ることが重要ではないだろうか。

このような結果から、今後の支援で必要な視点として、保護者が安心し、リフレッシュすることが出来る場所を作ることだと考える。またその際には、大豆生田\*の考察の様に、現代的な社会問題や、制度の中で、子どもについての専門家である保育者が、保護者に寄り添うことが重要であると考えられる。

## 6. まとめ

現代の子育て世代が抱える課題として、アンケート、各論文や調査において次の3つが課題であると言える。

- ① 孤独や不安を抱えやすい環境にいる
- ② 育児に関するストレスの解消ができない
- ③ 安全や衛生管理への不安

変化が激しい現代社会の中では、子どもと保護者のための支援をどう工夫していくかを、保育者と保護者が共に主体となり、考え続けることが非常に重要であると知りました。

また、支援の場にたどり着くことができない方に対し、保育者が様々なアプローチからその場に導くことが非常に重要であるということが分かった。今回の結果を認定こども園 やかまし村様へ提案し、共により良い支援を考えていきたい。また、4月から保育者として働くにあたり、今回の貴重な経験を活かし、子どもの最善の利益につなげるとともに、保育業界へ貢献していきたいと強く感じる事ができた。

## 7. 参考文献

\*1) 厚生労働省子ども家庭局 R3. 4. 6 コロナ禍の子育て支援策についての資料

\*2) 唐田 順子 森田 明美 共著 2 東洋大学人間科学総合研究所紀要 第7号 (2007) 249-263

乳幼児をもつ母親の子育てに関する困りごとや悩みごとに関する研究—児の年齢別、初経産別による検討—

\*3) 大豆生田啓友 『新制度以降の自治体発の子育て支援・保育の取り組み』2017.6.

#### 参考文献

- 1) 文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館 2018.3
- 2) 厚生労働省『保育所保育指針解説』フレーベル館 2018.3
- 3) 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館 2018.3
- 4) 社会福祉法人全国社会福祉協議会 全国保育士会『新型コロナウイルス感染症への対応等に関する調査結果(概要版)』(最終閲覧日 2022.12.12)  
[https://www.z-hoikushikai.com/download.php?new\\_arrival\\_document\\_id=108](https://www.z-hoikushikai.com/download.php?new_arrival_document_id=108)
- 5) 内閣府官房 HP『こども政策の推進(こども家庭庁の設置等)』(最終閲覧日 2023.1.31)  
[https://www.cas.go.jp/jp/seisaku/kodomo\\_seisaku\\_suishin/index.html](https://www.cas.go.jp/jp/seisaku/kodomo_seisaku_suishin/index.html)
- 6) 内閣府官房『孤独・孤立対策の重点計画』(2022.2.3)  
[https://www.cas.go.jp/jp/seisaku/juten\\_keikaku/pdf/jutenkeikaku\\_honbun.pdf](https://www.cas.go.jp/jp/seisaku/juten_keikaku/pdf/jutenkeikaku_honbun.pdf)

(指導教員 平山淑希)